

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706671		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん湯沢		
所在地	秋田県湯沢市元清水二丁目5番20号		
自己評価作成日	令和8年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和8年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員手作りの食事を提供しており、喜んでいただいています。食事の時間やおやつの時間、入浴など、1日の流れはございますがあくまでも利用者本位ととらえ、本人に合わせてずらしたり、組み替えるなど、日常的に対応しています。施設での様子を、1か月ごとに担当職員が、写真を織り交ぜ報告書を作成し、お送りしています。離れて暮らしても、家族として身近に感じてもらえるような内容に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年代の違う職員が在籍し、職員それぞれの事情を考慮して協力し合いながら利用者支援に繋げており、利用者が持っている力が活用できるよう工夫し、できることをしてもらうことで前向きに生活できる支援に努めています。また、新規に入居された方が多く、利用者だけではなく、家族との関係性も大切なものとして取り組んでいます。食事は材料の購入から調理まで職員が行ない、手作りの家庭料理を食べやすく工夫して提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き生きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するため、新しい職員や年配の職員の精神的、肉体的な余裕があるか確認しながら具体的な実践につなげています	理念と実践内容が違っていると感じた時には事例をあげて日常を振り返り、理念を確認してケアの統一性を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	収穫の秋には季節の野菜をいただいたり、個人宅で使用しなくなった介護用品など寄贈いただいたり施設を認識して下さっています	近隣の方に訪問美容をお願いし、犬の散歩の際に立ち寄ってくれる方もいます。ホームの避難訓練に協力してもらっていますが、町内の防災訓練に参加し、地域との関わりに積極的に取り組んでいくことも望まれます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	避難訓練には地域の方を交え、車いすの扱いや、歩行介助の仕方などお伝えし、消火器の消火訓練など一緒に行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の情報から全国的な情報まで幅広く自由に話すことができ、介護の分野だけではなく様々な視点から課題を話し合えるため、サービスや職員の意識向上にもつながっています	ホームの現状を報告して意見をもらい、サービスの向上に活かせるよう努めています。議事録は職員が回覧できるようにしています。	状況報告にとどまらず、進行の仕方に工夫して地域との関わり方や災害対策について話し合い、会議を運営に活かす取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者、家族から相談や要望がある際も勝手な判断はせず、ことあるごとに相談、報告、指摘協力を得ています	届け出事項の提出や制度上の不明点を相談する等、連携して利用者支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの時間にカンファレンスを行い、センサー使用利用者について継続の必要について話し合い、後に虐待につながると思われる不適切なケアについても話し合っています。カンファレンスの結果を運営推進会議で行っている委員会で報告、客観的な目線で確認し、職員が自覚をもって防止に努めています	カンファレンスで不適切なケアについて話し合い、身体拘束、虐待のないケアに努めています。職員の気になる言葉遣いがみられた時にはその場で注意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	OJTのテーマに取り入れ、参加できなかった職員への資料整備にて、全員の理解に努めています		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を急がず、ご自宅にてご本人との面談からご家族と一緒に施設を見学いただき、両者の不安を確認し、解決できる部分は入居前に整えるよう努めています		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	面会や支払いで訪問いただいた際、近況を日常会話で報告する中、利用者が家族にもらす本音はいかがですかと、さりげなく伺える会話を心掛けています。いただいた要望はその日の軽ミーティングには話し合い共有し、早い対応に努めています	新規入居者が多く、その家族からの要望も多く、遠慮なく話してもらっています。その都度話し合い、対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	個人面談や軽ミーティング、月1ミーティングで意見や提案を求め早めの対応を心掛けています。年配職員、子育て世代の職員が助け合って働く意識作り、精神的や肉体的に無理のない業務改善などに努めています	利用者の状態に合わせて業務の効率的な流れを話し合い、業務改善に繋げている他、職員の事情をお互いに気遣ってシフトを調整する等、日々の話し合いが運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者ネットワークがあり、対面の会議や交流はコロナ以降再開されてはいませんが、グループLINEは継続されており、事あるごとに相談や事例検討など意見交換をしています		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報だけではわからない不安や要望、それを言葉にできない気持ちに寄り添い探る体制が作られています。一つひとつ気づきを増やして共有し、対応することで安心できる環境、関係づくりに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者がご家族の生活環境から抜けることで変化した家族の形について、安定しておられるかどうかさりげなく会話の中で確認しています。事前情報だけではわからなかった困りごとや不安についても、気軽に話せる雰囲気作りに努めています		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が今まで培ってきたものや得意分野が活かせるよう、個人個人の生活リズムを大事に、1日の過ごし方を考えています。利用者がサービスを一方的に受ける形ではない、共同生活にあることを、機会あるごとに職員と利用者の両方意識できるよう努めています		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を設定せず、ご自宅への外泊も制限なく再開し、施設を家族の延長として感じられる距離を目指しています。施設の生活で家族を忘れないよう会話の中で名前を出し、いつも身近に感じていられるよう努めています		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族との交流には時間設定をせず、家族の都合のいい時間で会えるように対応しています。入居される前からの美容院へ継続で通ったり、年越しを家族と過ごしたり、つながりが途切れないように努めています	利用者にとって馴染みの人は家族ですが、在宅時に行なってきたことや入居後の新たな馴染みの関係も本人にとって大切なこととして継続できるよう支援しています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で関係性の観察と情報共有にて、互いの溝が深くないうちに対応しています。食堂に集まった時の席順など、テーブルの配置から模様替えし様子をみながらも、共同生活の場であることを、折に触れ話しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスは終了しても、利用者の今後が定まらない状況に不安を抱えることのないよう連絡を取り合い、フォローに努めています		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	お伺いを立ていただいた了承であっても、本音かどうか、その後の様子や、ご家族へ確認を求めするなど、出来るだけ意向に沿ったケアを目指しています	二人だけの時や日常会話から意向の把握に努め、思いを伝えることができない方は、表情等から思いを汲み取るようにしています。ミーティングノートや管理日誌に記録して共有し、意向に添えるよう検討しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅でのペットや家具の配置などなるべく動線を近づけるようにし、ご本人のこだわりや思いを細やかに家族へ確認し取り入れることで、落ち着いて過ごせる空間づくりに努めています		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご家族の意見や職員の気づきとアイデアは、ミーティングや申し送りでもなるべくニュアンスまで伝わるよう話し合っています。それでも残る違和感については、なるべく早い段階ですり合わせをしています	モニタリングを全職員で行ない、話し合いの上で介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日常の気づきは記録に残し、休みの職員が把握できるよう、管理日誌にも重ねて残しています。情報受ける側もわからないままにせず、ニュアンスを確認できる雰囲気作りに努めています		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に利用していたサービスがあれば、入居後も相談員へ連絡をとり、状態が向上していけるよう配慮しています。ご本人へ以前の生活と比べて不足なところはないか、さりげなく確認しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続でそれぞれ受診しています。家族が面会や外食を兼ねて対応くださる方や、家族と話し合いの上職員が対応するなど、利用者に合わせて対応しています	利用者それぞれのかかりつけ医に通院しています。家族対応が多く、必要に応じて利用者の状態がわかるメモを渡して医師に伝えてもらっています。訪問歯科診療が受けられるよう支援しており、薬局とも良好な関係を築いています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今現在訪問看護を利用している利用者はいません。受診時は医師だけに限らず、看護師、受付事務の方、薬剤師へそれぞれアドバイスをもらっています		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病棟担当看護師や、退院支援看護師と連絡を取り合い、より良いタイミングで退院できることや、退院後の準備に努めています		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階を踏んでいくにつれ、家族の気持ちを確認しながら、気持ちの変化を大切に、心の準備を図っています。本人の望む最後と家族の希望、施設で出来ることのすり合わせを行い、急な事態にも対応できる心の準備に努めています	看取りの希望があれば対応することになっていますが、かかりつけ医によって対応が異なるため、状態の変化に応じて家族と話し合い、特養に移動した方もいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットや事故について、早い段階での振り返りカンファレンスを行い、対策の検討を行い今後の対応に繋いでいます。消防署による救命講習の指導も受けています		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員、地域の方、設備業者と共同で行う避難訓練では、反省会も合同で行い意見をいただき、次の避難訓練や災害準備に繋がっています。非常食や水の備蓄においても期限を管理して、食事に提供し、非常食の説明と味や好み利用者が問題なく食べられるか確認しています	訓練には地域の方が参加し、利用者の見守りをお願いしていますが、その後の具体的なことは決めていません。	特に夜間の火災の際に、職員と利用者の安全な避難に繋げるために、一時避難場所の設定や協力してくれる方の具体的な支援方法等を運営推進会議で協議し、職員と情報を共有して取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時は、ひとり一人に合わせた時間や距離感を大事にしています。声掛けについても周囲に配慮し、なにより自分で出来る実感を大切に、介助職員の方向性統一に努めています	利用者の症状を理解し、言葉遣いや言動に配慮しています。トイレが玄関、寛ぎのスペースから見える位置にあるため、プライバシー、羞恥心に配慮したケアを心がけています。入居時に同性介助の確認をしています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人へ着たい服を選んでいただくのはもちろん、職員が選ばないといけない場合も、いつも同じ服にならないよう配慮しています。自分でできなくなってきた利用者に対しても決めつけず、髪をとかす促しをし、身だしなみについて意識をもち、綺麗と声掛け、実感していただくことを大事にしています		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの得意分野を活かし、盛り付け、下ごしらえ、皿拭きなど、それぞれ日常の役割として行っています。提供される側ではなく、自分たちでといった意識付けに努めています	差し入れの野菜や山菜料理を調理し、職員手作りの食事を提供しています。バイキング形式を取り入れる等、食事が楽しいものになるよう工夫しています。当日のメニューを記録することを自分の仕事としている方もいます。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定をみて食事量に反映させています。認知症の進行により定期の時間では摂れなくなっている利用者については、好きなものや、調子のよい日や時間に多く摂っていただくなど、数日トータルで管理するようにしています。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促し、利用者それぞれに合った付き添いの仕方や、口腔内の確認、介助を行っています		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録の排せつ記録を利用し、ひとり一人違う間隔でトイレを促し、失禁につながらないよう努めています。座ったからと言って排せつにつながるわけではないため、羞恥心に配慮し、個々の性格に合わせた距離感やパターンを探り、成功を目指しています。	チェック表で一人ひとりの排泄状況を確認し、その人に合った誘導をすることで失敗の減少に繋げ、経費削減にも繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排せつリズムの把握、朝食後のトイレ誘導、毎日のヨーグルト摂取、腹部マッサージなど、まずは薬に頼らない自然な排せつへの取り組みをしています		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	湯の温度や、洗髪洗体の順番など、個々のこだわりや要望を理解して、気持ちよかったと実感してもらうことを目的としています。気が乗らない日は無理をせず、日をあらためてお誘いしています	利用者それぞれのこだわりの入浴の仕方を大切に、週2回の入浴を支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前から昼寝をする人しない人を把握し、本人の生活リズムが継続できるよう合わせて支援しています。夜間熟睡できているか情報共有し、日中の過ごし方を工夫するなど、安眠につながるよう努めています		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態変化による薬の変更あった際は、内容の変更の申し送りを速やかに行い、ケア変更の記録、経過観察記録にて周知に努めています		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意な家事仕事を、日常生活に取り入れ習慣化し、役割となっています。過去の得意分野を活かした行事内容の計画など、利用者それぞれが楽しめることを考えています		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の好み、希望を募り外出計画を立てています。まだ気軽に買い物などは行けていませんが、感染対策が出来る外出に関しては全員参加を目指して計画していく予定です。家族との外出や自宅への外泊については制限なく再開しています。散歩が日課だった利用者が、入居で断念することのないよう、付き添いの時間を設けて、毎日続けております。熊の出没と雪でお休みしていますが、春再開予定です	桜や紅葉を観にドライブしている他、玄関前のベンチで外気浴をし、畑の野菜を収穫したり、鉢植えの管理をしている方もいて戸外に出てホームにこもらない暮らし方ができるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族理解のもと、自分で少額をお財布管理されている方もおり、「ミカン買ってきて」と頼まれ、皆さんにふるまっていることもありました		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの換気に留意し、即効性のある消臭スプレーを使用し、不快な思いをされないよう努めています。共有スペースでは、季節の飾りを毎年の役目としている利用者もおられます。物理的なことだけでなく、職員の動向に注意し、環境の一部であることを意識して対応しています	小上がりにテレビを置き、ソファーや椅子を設置して新聞を読んだり、利用者同士でおしゃべりをしたり、寛ぎの場になっており、季節を感じ取ってもらえるように慣習に合わせて飾りつけをしています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で過ごせたり、ひとりを好む時間を確保できるよう配慮したり、スタッフと和んだり、臨機応変な対応に努めています		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、自宅で使っていたものをそのまま持ち込んでいただき、面談の時可能な場合は、本人が過ごしていたお部屋を確認させていただき、なるべく近づけるよう配慮しています。本人やご家族が自由に飾れるようにし、写真や思い出の品に会話を通して触れるようにしています	利用者の症状に合わせて持ち物の配置を考え、安心して過ごせる居住スペースをつくっています。また、季節毎に居室のレイアウトを行なって環境づくりをしている家族もいます。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	水やりを含めた鉢植え(花)の管理や、広告でゴミ箱を折って生活の中で皆さんで使用し役立つ実感するなど、それぞれ違った小さな役割をもって過ごせるよう努めています。今行っていることが、継続できなくなっても、それに代わる活かせる分野を見つける話し合いをしています		